

10 新しい取組み （より積極的な情報の発信）

日本獣医師会の本委員会における検討や取組みの内容、全国の地方獣医師会の具体的な取組事例等をより積極的にわかりやすく発信することが望ましいとされた。すでに会報への関連記事の掲載等を実施している地方獣医師会（宮崎県）もある。そのため、委員が順番に担当し、日本獣医師会雑誌に関連記事の連載を開始し、今後も続けて行くこととされた。

また、出身大学の同窓会誌等に関連記事を投稿・寄稿することについて取組みが開始された。

11 おわりにー今後の対策の推進のためにー

今回の取りまとめにあたり、平成29年の報告書にもり込まれた対策の項目「男性中心型の制度・慣行の見直しのはたらきかけ」について検討した。産業動物診療分野において、子育て中の女性にも男性中心型だった旧来の人事異動ルールが適用されている例等に対応してきた。今期委員会での検討において、産業動物診療分野では女性獣医師の増加とともに環境が大きく変わり、男性中心型ではなくなっているとされ、小動物診療の分野でも同様とされた。女性獣医師支援特別委員会として委員会が設置されて10年、女性獣医師が増え続け、どの職域も男性中心型ではなくなったとの認識から、「男性中心型の制度、慣行見直しのはたらきかけ」については、検討項目から削除してよいと結論づけられた。画期的といえるこの変化の一方、女性差別的な言動を問題にする時代が終わり、女性獣医師をとりまく環境は大きく変わった、とされ、男性の育休取得が国をあげて推進されている中で、本当にすべての獣医師が活躍しやすい環境が実現できているのか疑問も残る。この10年での変化をとらえるための調査とともに、比較的制度が整っているとされる公務員の分野においても数年で退職する人が多く、採用に苦慮している地方自治体が多い。なぜ辞めるのか、どこで躓くのか、どうしたら辞めなかったのか等についての詳細な調査が必要である。

「終身雇用」はすでに死語となり、就職してきた新人獣医師が、ここで働き続けたい！と感じてくれるよう、職場側が変わる必要がある。現場では今なお、肉体的、精神的につらい仕事も存在し、その軽減のための技術改革が遅れていることも指摘された。男性獣医師でも健康を害するような職場はまだ存在し、サポートのための技術開発・研究が必要とされており、そのための実態調査等が求められている。

すぐには難しくても、人材バンク、相談体制などのこれまでに残された課題の解決と、新たな実態調査の結果を踏まえた対策の推進のための取り組みを続けることが必要であると考えられる。